

6. 最後にサービス・ラーニングだからできること（しないといけないこと）

現在、インターンシップやフィールドワーク、プロジェクト・ベースド・ラーニングなど、体験型・参加型のプログラムは増えてきています。では、これらのプログラムとサービス・ラーニングとの違い=サービス・ラーニングだからできることは何なのでしょう？

逆に言えば、サービス・ラーニングを実施する上で、これだけは押さえなければいけない理念的なポイントは何なのでしょう？

それを考える上でのキーワードは Respublica。ラテン語で「共和国」や「国家」の意味ですが、原義は「公共のもの」です。

公共=Public にコミット（参画）したいと考え、その能力を持った Active Citizen を育てるのがサービス・ラーニングの目的ですが、公共の利益（公益）にも地域益、国益、世界益…と様々なレベルがあります。その中で、Respublica =全体益・地球益を目指すということがとても重要です。

特に、グローバル化した現在においては、表面化している問題の原因が複雑化しており、その解決のためには Respublica という視点が必要不可欠です。

しかし、私たちは部分益を全体益と取り違える危険性を常に孕んでいる存在です。それは、「世界市民」や「新たな公共の担い手」を標榜する NPO や NGO を中心とした市民セクターの中でも、足の引っ張り合いやセクト主義があるのは否定できません。結果として、協働やリソースの最適化が、なかなかできていないのが現状です。（※）

Respublica =全体益を目指すというマインドと協働のスキルを持った若者が増えていくことが、縦割り化・セクト化し、閉塞感が広がっている社会のブレイクスルーに繋がるというのが、サービス・ラーニングのビジョンなのではないでしょうか。

※ 『ボランティア活動の今日的課題』（大阪ボランティア協会発行）には以下のように書かれています。

昨今のボランティアグループがかかえている活動上の悩みをみると、活動がマンネリ化している、メンバーが不足、メンバーが長続きしない、リーダーのなり手がいないをはじめ、さまざまなものがみられますが、これらはひとつには"たこつぼ化現象"に起因しているといえましょう。

確かにボランティアグループはそれぞれの殻の中に閉じこもっていても、一見、通常の活動には何ら支障がないようにさえ思われます。むしろ、その方が楽である。わずらわしさが無い、手間をとらない、本来の活動がきっちりできる……などとさえとらえられやすい一面もあります。

また中には、日常生活に追われて精一杯であり、自己のグループの現状を客観的に分析したり、あるいはまわりをじっくり見渡したり、ましてや他と連携したりするゆとりはない、とするかもしれません。

しかし、現状社会のさまざまな状況、ボランティア活動をとりまく状況が大きく変容しつつある今日にあって、それぞれがたこつぼの中に入り込んでしまい、旧態通りの活動に終始しているとすれば、相対的にとらえて活動は後退しているとさえいえ、活動がしぼんでいく方向にあってより活性化し豊かにふくらんでいく方向には乏しくなっていると いえましょう。